

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第80集

戸坂遺跡群

四ツ塚遺跡Ⅱ

YOTUZUKA

長野県佐久市新子田四ツ塚遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2000.3

佐久市土地開発公社

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第80集

戸坂遺跡群

四ツ塚遺跡Ⅱ

Y O T U Z U K A

長野県佐久市新子田四ツ塚遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2000.3

佐久市土地開発公社

佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は、佐久市土地開発公社による市道改良（市道39-67）に伴う、埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 調査委託者 佐久市大字中込3056 佐久市土地開発公社
- 3 調査受託者 佐久市大字中込3056 佐久市教育委員会 依田 英夫
- 4 遺 跡 名 戸坂遺跡群 四ツ塚遺跡Ⅱ（TYMⅡ）
- 5 発掘調査所在地積 佐久市大字新子田字供養塚841-3外8筆
- 6 調査期間及び面積 平成11年6月8日～平成11年6月11日（現場作業）
平成11年6月14日～平成12年3月31日（整理作業）
開発面積1,017.5㎡
調査面積 320㎡
- 7 本調査は森泉かよ子が行った。
- 8 編集・執筆は上原学が行った。
- 9 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺跡の略称 TYMⅡ
- 2 遺構の略称 竪穴住居址-H 掘立柱建物址-F 土坑-D
- 3 遺構の縮尺 竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑 1/80
- 4 遺構の標高は各遺構図版上に明記。
- 5 土層・遺物の色調は1988年度版「新版 標準土色帖」を使用。
- 6 調査区グリッドは公共座標に基づき大グリッド40×40m、小グリッド4×4mに設定。

目 次

例 言・凡 例

目 次

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 立地と経過	1
第 2 節 調査体制	2
第 3 節 調査の概要	3

第 II 章 基本層序

第 III 章 遺構と遺物

第 1 節 竪穴住居址	5
H 1 号住居址	5
H 2 号住居址	7
第 2 節 掘立柱建物址	9
まとめ	9

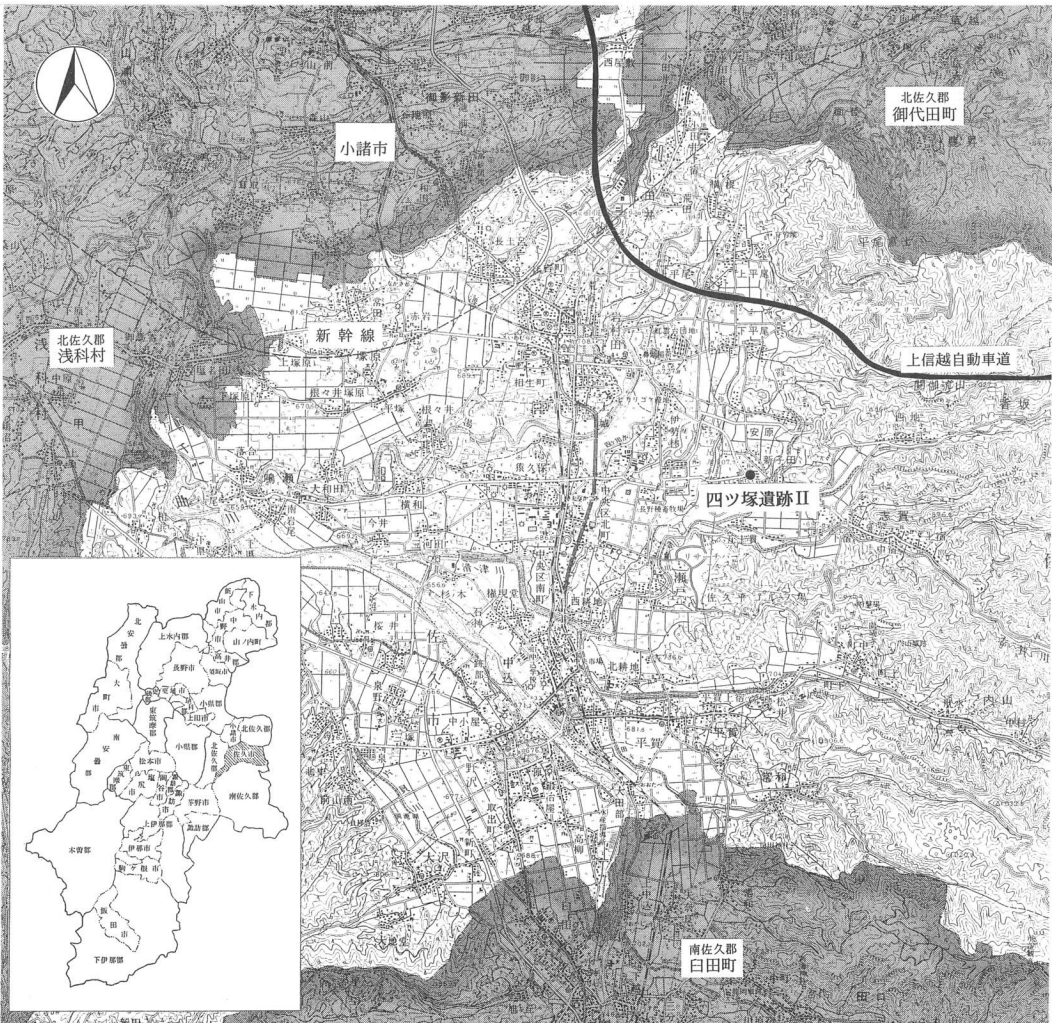
写真図版

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 立地と経過

戸坂遺跡群四ツ塚遺跡は佐久市大字新子田地積に所在し、湯川の東に広がる標高704m内外の台地東端付近に位置する。また調査区の北東には四ツ塚遺跡 I が所在し、平成10年度に発掘調査が行われ、奈良時代の住居址 5 軒、古墳跡 1 基、溝状遺構が確認されている。

今回、佐久市土地開発公社による道路改良事業が行われることとなり、開発地域における遺構の存在を確認するため、平成11年4月に試掘調査を行った。その結果、古代の竪穴住居址が認められたため、佐久市教育委員会が主体となり、遺構の記録保存を目的として発掘調査を行う運びとなった。



四ツ塚遺跡 II 位置図 (1:100,000)



戸坂遺跡群四ツ塚遺跡II位置図 (1:10,000)

第2節 調査体制

教 育 長 依田 英夫

教 育 次 長 小林 宏造

文化財課長 草間 芳行

文化財係長 荻原 一馬

文化財係 林 幸彦 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田 卓也 富沢 一明

上原 学 出澤 力 山本 秀典

調 査 主 任 佐々木 宗昭 森泉 かよ子

調 査 担 当 者 森泉 かよ子

調 査 員 上原 幸子 花里 四之助 花里 三佐子 水間 雅義

第3節 調査の概要

四ツ塚遺跡Ⅱの調査によって、竪穴住居址2軒を検出した。H1号住居址は、北側は調査区外となり、南3分の2が調査可能であった。壁高は70cm前後と深く、かまどは認められなかった。出土遺物の特徴から7世紀末頃と考えられる。H2号住居址は、遺構の全体が調査可能であった。壁高は30cm前後を測り、北壁中央にかまどを構築していた。時期は、6世紀後半ともとれる坏が認められるが、長胴甕の様相がやや時代を下ることから本遺跡では7世紀前半としておく。

四ツ塚遺跡Ⅱ検出遺構

竪穴住居址 2軒 H1号住居址 古墳時代（7世紀末頃） 掘立柱建物址 1棟

H2号住居址 古墳時代（7世紀前半）

四ツ塚遺跡Ⅱ出土遺物

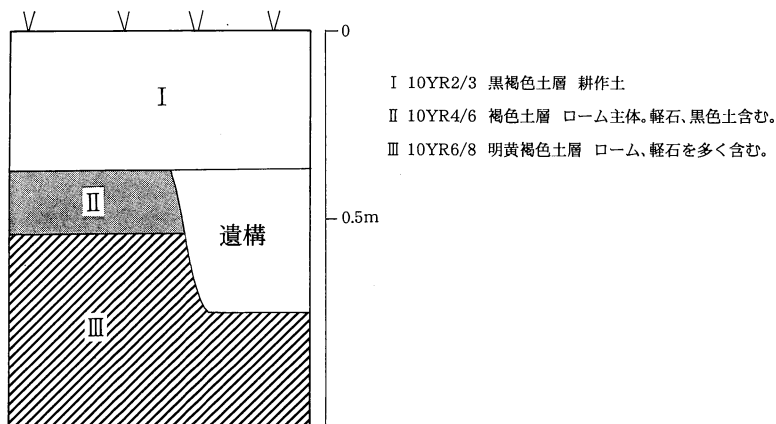
土師器（古墳） 坏・甕・高坏

須恵器（古墳） 坏

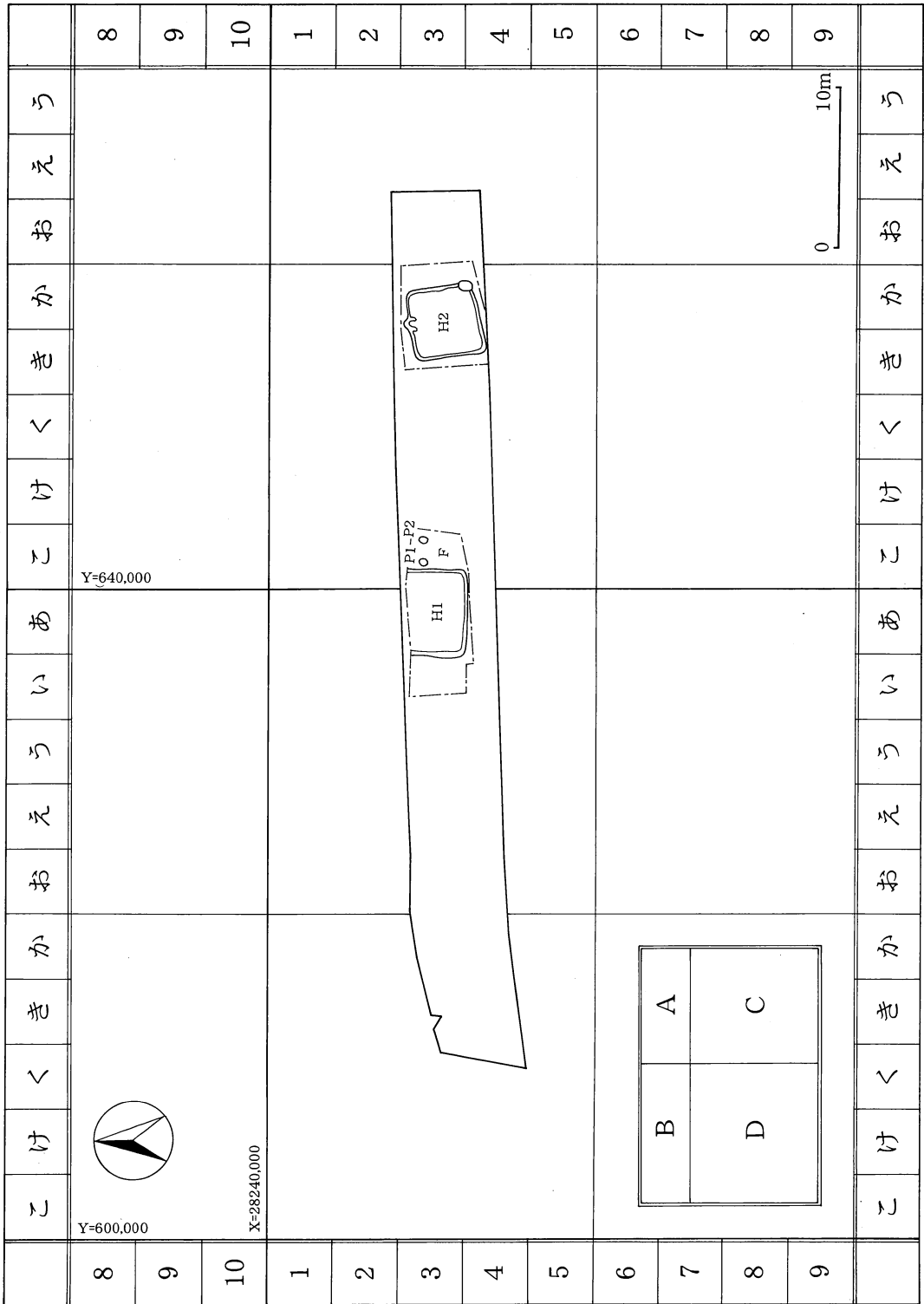
第Ⅱ章 基本層序

四ツ塚遺跡Ⅱは西方の田切り地形及び東方の香坂川によって分断された標高704m内外の台地上に位置する。

発掘調査における層序は3層認められた。Ⅰ層は黒褐色の表土（耕作土）で、Ⅱ層は表土とロームに挟まれた褐色土、Ⅲ層は黄褐色のローム土である。このうち遺構はⅡ層上面において検出可能であった。



基本層序模式図

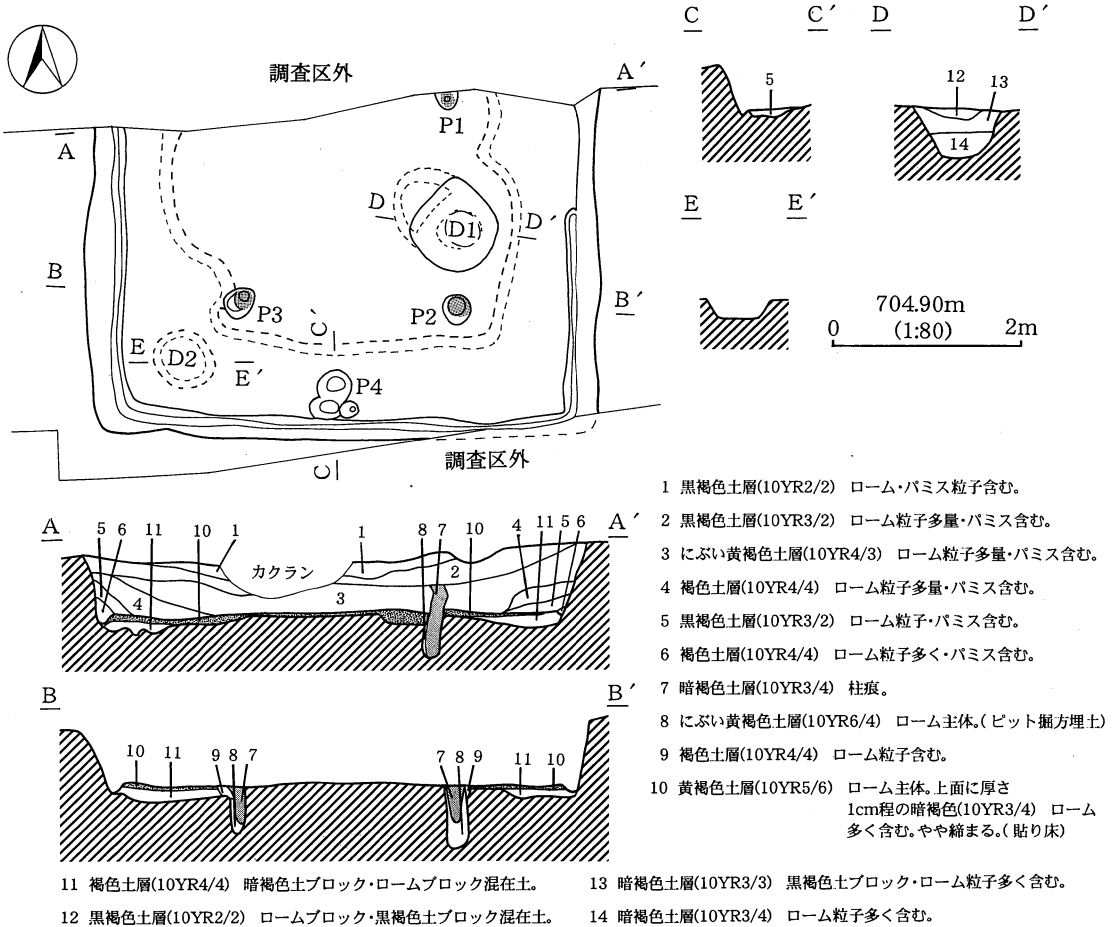


四ツ塚遺跡Ⅱ全体図 (1:400)

第三章 遺構と遺物

第1節 住居址

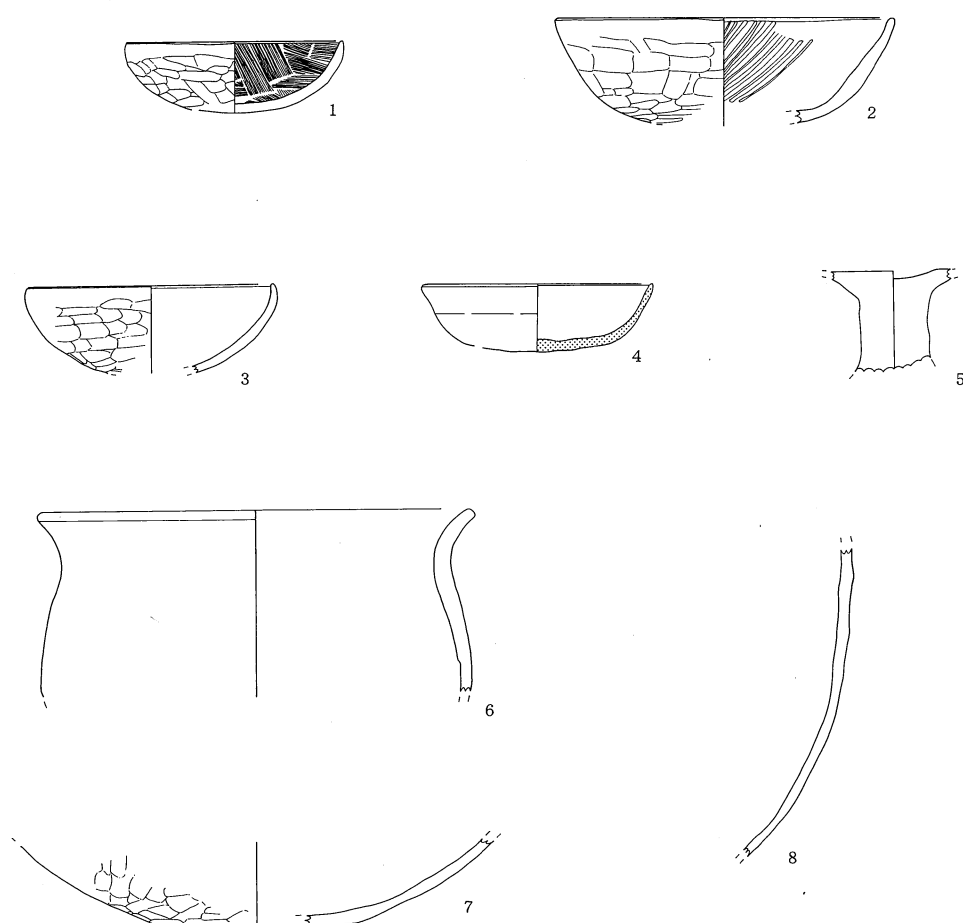
H1号住居址



H1号住居址実測図

遺構No.	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱 穴(個)	貼り床(cm)	掘 方(cm)	出土遺物	重複 遺 構
H1	D-あ-3	方形	不明	7c末頃	3+1	2~4	0~16	土師器	北側調査区外
規 模	cm	壁長	壁高	遺構は調査区中央に位置する。壁高は56~70cmと深く、やや外傾ぎみに立ち上がる。床面は1cm前後の厚さで貼り床されしまっている。ピットは床面上から4個確認でき、このうちP1~P3が主柱穴と思われる。また遺構セクション図からP1の柱痕と考えられる土層No.7が、床面上部まで達していることが確認できた。かまどは認められなかったが、北側が調査区外であるため北かまどの可能性が高い。掘方は住居中央は高く残し、この周囲を20cm内外掘り込んでいた。					
	北壁	—	—						
	南壁	534	50						
	東壁	(346)	70						
西壁	(328)	62							
遺物は土師器の坏・甕・高坏が出土した。図示できたのは8点である。									

H1号住居址観察表

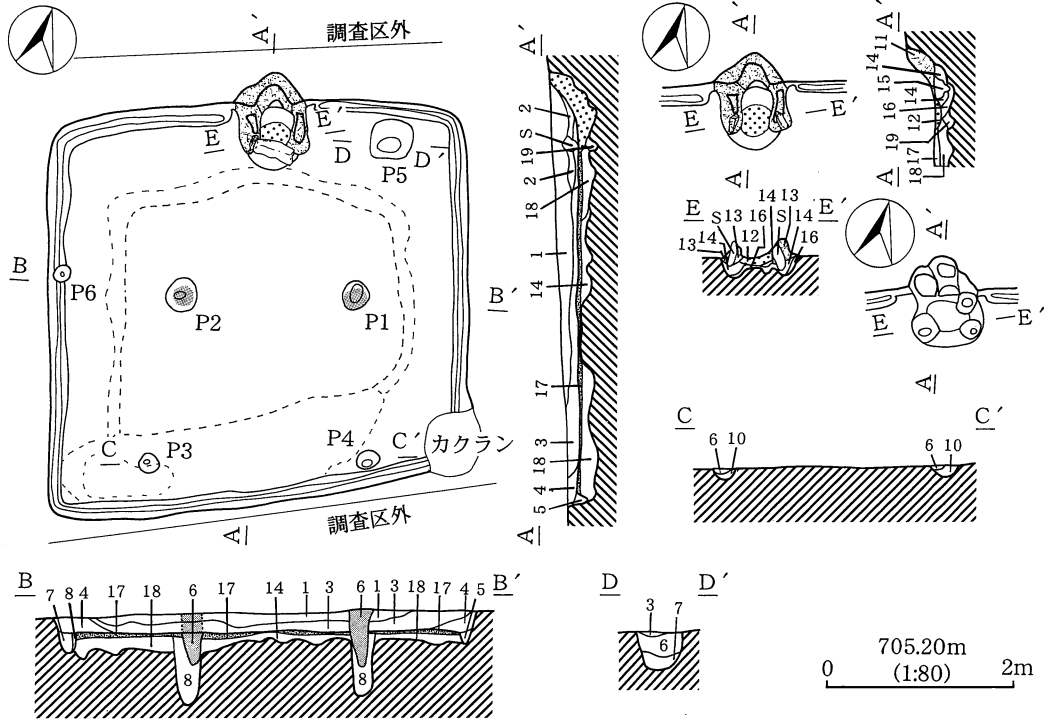


H 1 号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	(11.6)	丸底	3.2	外面 底部付近ヘラ削り 内面 ハケ	45	良好	5YR6/4 鈍い橙色	
2	土師器	高坏	(18.0)	-	-	外面 ヘラ削り 内面 ミガキ	坏部 20	良好	5YR5/6 明赤褐色	
3	土師器	坏	(12.8)	-	-	外面 ヘラ削り 内面 ナデ	20	良好	5YR6/4 鈍い橙色	
4	須恵器	坏	(12.2)	(7.0)	3.6	内外面 ロクロナデ 底部 回転ヘラ切り	55	良好	5Y6/1 灰色	
5	土師器	高坏	-	-	-	外面 ナデ	脚部の一部	良	10YR2/2 黒褐色	
6	土師器	甕	(23.2)	-	-	内外面 ミガキ 口縁裏 ミガキ 口縁表 ナデ	口縁の一部	良好	5YR4/4 鈍い赤褐色	
7	土師器	甕	-	(10.6)	-	外面 ヘラ削り	底部の一部	良	5YR5/6 明赤褐色	
8	土師器	甕	-	-	-	外面 ヘラ削り後ミガキ 内面 ヘラナデ	体部の一部	良	5YR4/6 赤褐色	

H 1 号住居址出土遺物観察表

H 2 号住居址

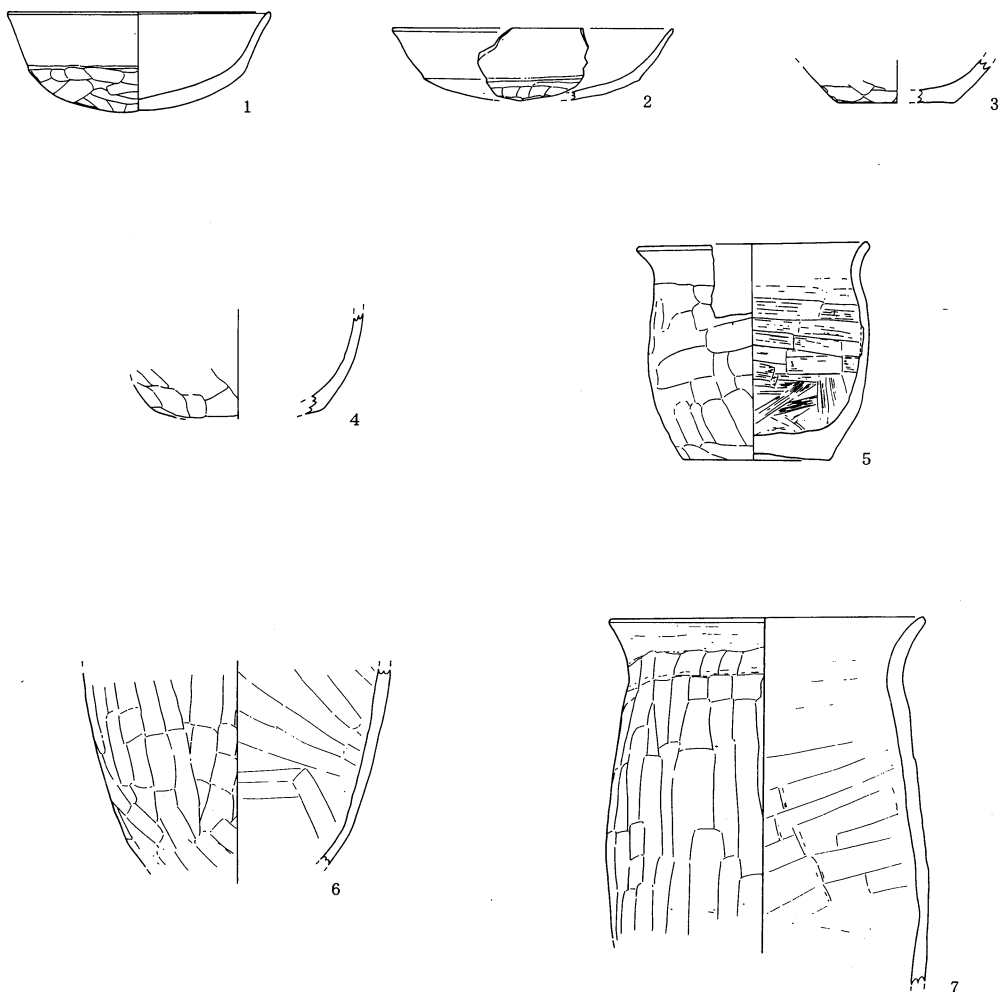


- 1 暗褐色土層(10YR3/3) ローム粒子多量黒色土ブロック含む。
- 2 黒褐色土層(10YR3/2) カマド粘土崩壊層。
- 3 黒褐色土層(10YR2/2) ブロック・にぶい黄褐色(10YR5/4)ロームブロック混在土。
- 4 暗褐色土層(10YR3/3) ローム粒子多く含む。
- 5 暗褐色土層(10YR3/4) ローム粒子多く含む。(周溝土)
- 6 黒褐色土層(10YR3/2) 柱痕。ローム粒子多く含む。
- 7 暗褐色土層(10YR3/4) 柱痕。ローム粒子多く含む。
- 8 暗褐色土層(10YR3/4) ロームブロック・暗褐色ブロック混在土
- 9 褐色土層(10YR4/4) ローム主体に暗褐色細ブロック含む。
- 10 褐色土層(10YR4/6) ローム主体。
- 11 黒褐色土層(7.5YR2/2) 粘土ブロック・暗褐色土混在土。
- 12 褐色土層(7.5YR4/6) 焼土。
- 13 黒褐色土層(7.5YR3/2) 粘土。
- 14 暗褐色土層(10YR3/4) ロームブロック・黒褐色土ブロック混在。
- 15 暗褐色土層(10YR3/3) ローム粒子多く含む。
- 16 褐色土層(7.5YR4/6) ローム主体。
- 17 褐色土層(10YR4/6) 貼り床。暗褐色土細ブロック含む。
- 18 褐色土層(10YR4/6) 暗褐色土ブロック含む。
- 19 にぶい黄褐色土層(10YR6/4) ローム主体。

H 2 号住居址実測図

遺構No	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱 穴(個)	貼り床(cm)	掘 方(cm)	出土遺物	重複 遺 構
H 2	C-か-3	方形	北壁中央	7 c前半	2 + 3	2~5	6~18	土師器	
規	cm	壁 長	壁 高	遺構は調査区東に位置する。壁高は19~35cmを測り、やや外傾気味に立ち上がる。床面は1~2cm前後の厚さで貼り床され、かまど前面付近は堅くしまっている。壁際には幅14cm、深さ10cm内外の周溝が存在する。ピットは床面上で5個確認でき、このうちP1・P2が主柱穴である。また遺構セクション図からP1の柱痕と考えられる土層No.6が遺構確認面まで達していることが認められた。かまどは北壁中央に構築されている。楯は北壁から住居内に火床を挟み込むように50cm程度入り込み、先端部に扁平な石材を補強として埋め込んでいる。近くには、焼き口部の天井石と思われる長方形の石が横たわっていた。火床には厚さ6cmの焼土が堆積していた。掘方は中央がやや高く壁際を浅く掘り込んでいた。					
	北壁	444	30						
	南壁	446	35						
	東壁	396	28						
横	西壁	424	19						
遺物は土師器の坏・甕・壺が出土した。図示できたのは7点である。									

H 2 号住居址観察表

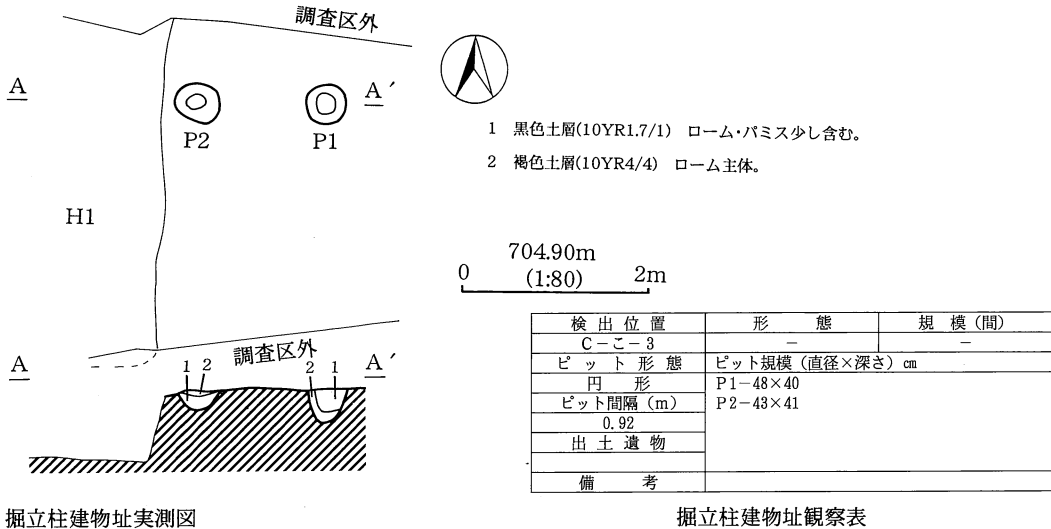


H 2 号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	(13.7)	丸底	5.3	底部周辺 内面	80	良	10YR4/3 褐色	
2	土師器	坏	(15.0)	-	-	底部周辺 内面	15	良	10YR4/3 褐色	
3	土師器	甕	-	(6.0)	-	内面 底部	底部 50	良	10YR3/3 暗褐色	
4	土師器	壺	-	(9.0)	-	外面	底部の 一部	良	10YR3/3 暗褐色	
5	土師器	広口壺	12.0	7.8	11.5	外面 底部	85	良	5YR4/4 鈍い赤褐色	表面薄利 激しい
6	土師器	甕	-	-	-	外面 内面	体部の 一部	良	5YR4/4 鈍い赤褐色	
7	土師器	甕	(16.38)	-	-	外面 内面	40	良	5YR4/4 鈍い赤褐色	

H 2 号住居址出土遺物観察表

第2節 掘立柱建物址



掘立柱建物址実測図

掘立柱建物址観察表

まとめ

戸坂遺跡群における調査は、近年では平成10年度に四ツ塚遺跡Ⅱの北東に位置する四ツ塚遺跡Ⅰ及び、北西に位置する供養塚遺跡の調査が行われ、奈良時代の集落の一部と考えられる竪穴住居址群（8世紀第一四半期）が確認されている。四ツ塚遺跡Ⅰ・供養塚遺跡の住居址は、各遺跡の調査区北寄りに集中し、四ツ塚遺跡Ⅱからは北方に60～80mの東西ライン上に点在していた。それ以南には溝状遺構が確認されたものの、古代の住居址は認められなかった。よって、奈良時代の集落は四ツ塚遺跡Ⅰ・供養塚遺跡の南には存在せず、北に展開するものと考えられた。今回、南に位置する四ツ塚遺跡Ⅱの調査が行われ、古墳時代後期の竪穴住居址2軒、掘立柱建物址の一部と思われるピット2個が確認できた。これらの住居址は7世紀前半と7世紀末頃の住居址と考えられ、北に存在する住居址群が8世紀第一四半期であることから若干時代が遡る。このことから、四ツ塚遺跡Ⅰ・供養塚遺跡で発見された奈良時代の住居址群は予想通り南方向には展開しない可能性が強くなった。しかし、新たに古墳時代後期の住居址が確認されたことによって、戸坂遺跡群内における集落の変遷を考える上で貴重な調査結果となった。おそらく古墳時代後期にはすでに四ツ塚遺跡Ⅱの所在する台地の南端付近には集落が形成され、奈良時代に至って四ツ塚遺跡Ⅰ・供養塚遺跡周辺に集落が移転または新たに形成されていったのではないだろうか。

また、遺跡の東には四ツ塚古墳が所在し、さらに四ツ塚遺跡Ⅰの調査においても7世紀末に築造されたと考えられる古墳跡が認められたことから、今回発見された7世紀代の住居址との関わりも興味深い。



四ツ塚遺跡Ⅱ周辺航空写真（垂直）



H1号住居址全景（東から）



H1号住居址堀方全景（東から）



H2号住居址全景（西から）



H2号住居址かまど（南から）



H 2 号住居址堀方全景（西から）



H 2 号住居址かまど堀方（南から）



掘立柱建物址全景（北から）



試掘風景（1）



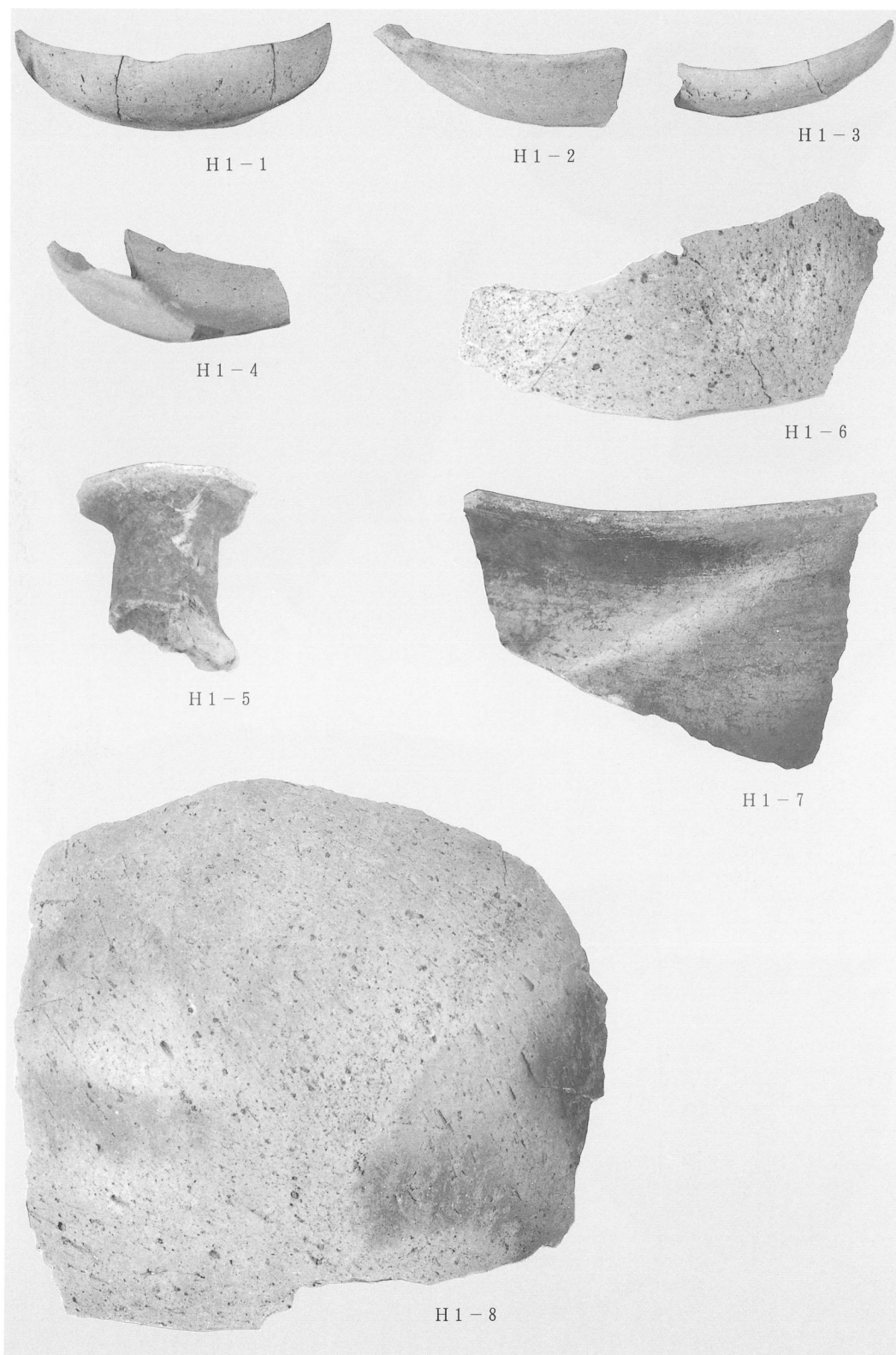
試掘風景（2）



試掘風景（H1号住居址検出状況）



試掘風景（H2号住居址検出状況）



H1-1

H1-2

H1-3

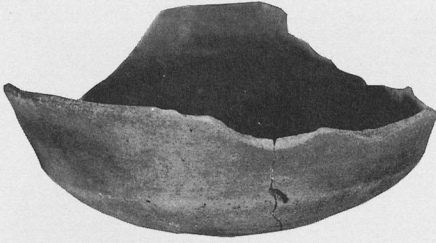
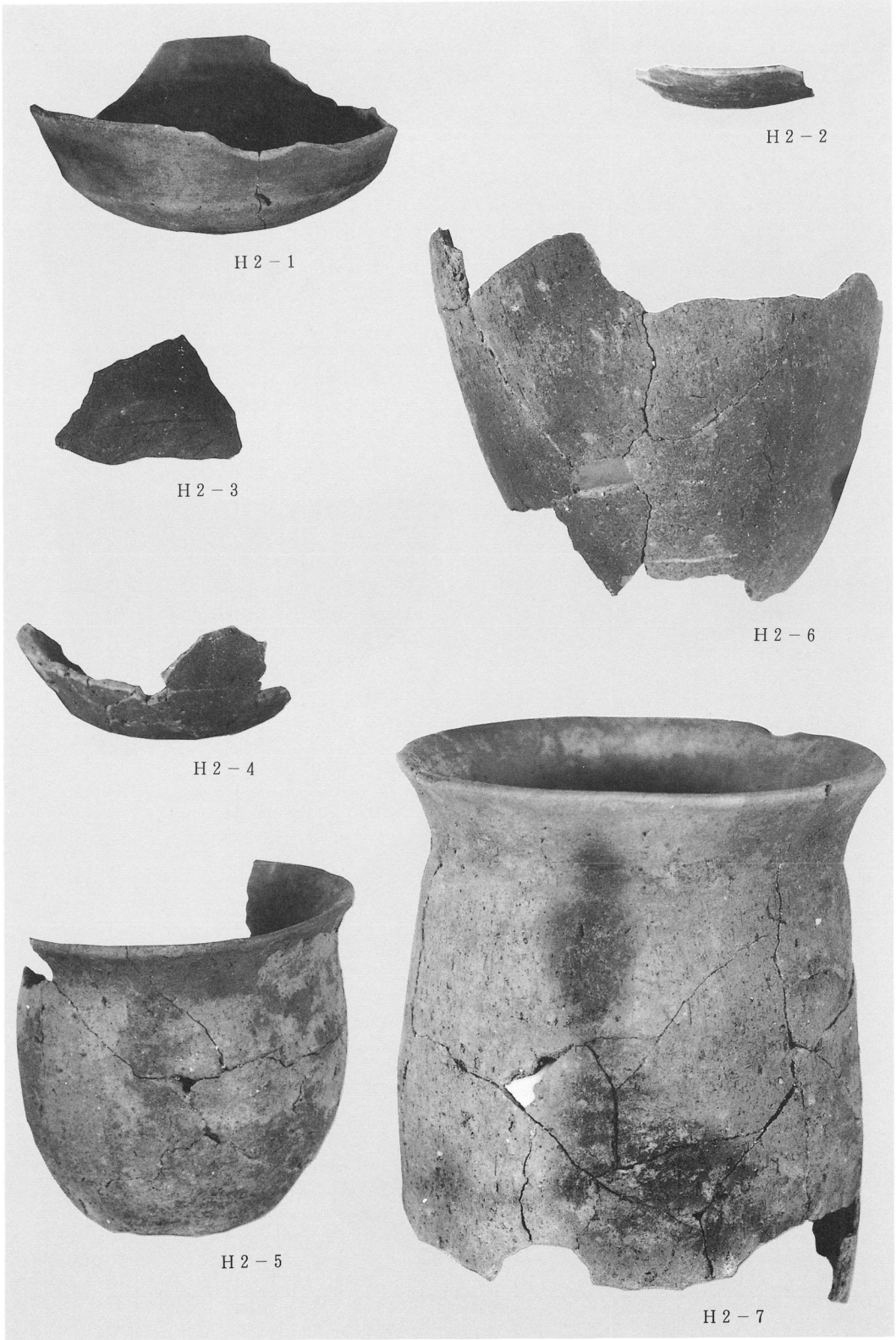
H1-4

H1-6

H1-5

H1-7

H1-8



H 2 - 1



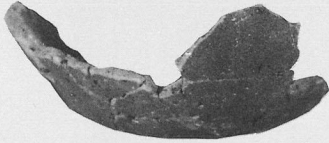
H 2 - 2



H 2 - 3



H 2 - 6



H 2 - 4



H 2 - 5



H 2 - 7

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- 第1集 『金井城跡』
第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』
第3集 『石附窯址群Ⅲ』
第4集 『大ふけ』
第5集 『立科F遺跡』
第6集 『上曾根遺跡』
第7集 『三貫畑遺跡』
第8集 『瀧の下遺跡』
第9集 『国道141線関係遺跡』
第10集 『聖原遺跡Ⅱ』
第11集 『赤座垣外遺跡』
第12集 『若宮遺跡Ⅱ』
第13集 『上高山遺跡Ⅱ』
第14集 『栗毛坂遺跡』
第15集 『野馬久保遺跡』
第16集 『石並遺跡』
第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1～3月)
第18集 『西曾根遺跡』
第19集 『上芝宮遺跡』
第20集 『下聖原遺跡Ⅲ』
第21集 『金井城跡Ⅲ』
第22集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』
第23集 『南上中原・南下中原遺跡』
第24集 『上聖端遺跡』
第25集 『上久保田向Ⅳ』
第26集 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』
第27集 『上久保田向Ⅲ』
第28集 『曾根新城Ⅴ』
第29集 『山法師遺跡B・筒村遺跡B』
第30集 『市内遺跡発掘調査報告書1992』
第31集 『山法師遺跡A・筒村遺跡A』
第32集 『東ノ割』
第33集 『聖原遺跡Ⅶ・下曾根遺跡Ⅰ・前藤部遺跡2』
第34集 『西一本柳遺跡Ⅰ』
第35集 『市内遺跡発掘調査報告書1993』
第36集 『蛇塚B遺跡Ⅲ』
第37集 『西一本柳遺跡Ⅱ・中西ノ久保遺跡Ⅰ』
第38集 『南下中原遺跡Ⅱ』
第39集 『中屋敷遺跡』
第40集 『寺畑遺跡』
第41集 『曾根新城Ⅰ～Ⅳ・Ⅴ他』
第42集 『奇山』
第43集 『権現平遺跡』
第44集 『寺添遺跡』
第45集 『市内遺跡発掘調査報告書1994』
第46集 『濁り遺跡』
第47集 『上芝宮遺跡Ⅴ』
第48集 『池畑城跡』
第49集 『根々井芝宮遺跡』
第50集 『藤塚遺跡Ⅲ』
第51集 『寺中遺跡・中屋敷遺跡Ⅱ』
第52集 『坪の内遺跡』
第53集 『円正坊遺跡Ⅱ』
第54集 『市内遺跡発掘調査報告書1995』
第55集 『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第56集 『聖原遺跡Ⅹ』
第57集 『高師町遺跡Ⅱ』
第58集 『下穴虫遺跡Ⅰ』
第59集 『市内遺跡発掘調査報告書1996』
第60集 『曾根城遺跡Ⅱ』
第61集 『割地遺跡』
第62集 『野馬久保遺跡Ⅱ』
第63集 『西大久保遺跡Ⅲ』
第64集 『梨の木遺跡Ⅳ』
第65集 『中宿遺跡』
第66集 『中西Ⅱ・仲田・寺畑Ⅱ』
第67集 『供養塚遺跡』
第68集 『前藤部遺跡』
第69集 『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第70集 『観音堂遺跡』
第71集 『市内遺跡発掘調査報告書1997』
第72集 『市道遺跡Ⅱ』
第73集 『西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ』
第74集 『五里田遺跡』
第75集 『八風山・五斗代』
第76集 『南近津遺跡』
第77集 『番屋前遺跡Ⅲ』
第78集 『蛇塚遺跡・蛇塚古墳』
第79集 『四ツ塚遺跡Ⅰ』

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第80集

戸坂遺跡群 四ツ塚遺跡Ⅱ

2000年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 中信社